

修士論文(要旨)  
2009年1月

職場における中国人の許可求め表現  
—待遇表現観を中心に—

指導 佐々木倫子 教授

国際学研究科  
言語教育専攻  
207J4009  
車金蓮

## 目次

第一章	研究の背景と先行研究	1
1.1	研究の背景と目的	1
1.2	待遇表現に関する先行研究	2
1.2.1	待遇表現の定義	2
1.2.2	待遇表現と敬語・敬意表現	2
1.2.3	中国語と日本語の待遇表現	3
1.3	待遇表現研究の日本語教育への応用	4
第二章	調査 1: ロールプレイによる待遇表現観調査	5
2.1	調査概要	5
2.2	調査結果	7
2.2.1	中国人協力者 CFY1 のロールプレイ	7
2.2.2	日本人協力者 JFA2 のインタビュー	8
2.2.3	中国人協力者 CFY1 のフィードバック	8
2.3	分析と考察	9
2.4	調査1のまとめと課題	16
第三章	調査 2: 対面インタビュー	16
3.1	調査概要	16
3.1.1	調査協力者	16
3.1.2	調査方法	17
3.1.3	インタビュー項目	17
3.2	調査内容概要	19
3.2.1	CMK4 調査	19
3.2.2	CFC5 調査	19
3.2.3	CFB6 調査	19
3.2.4	CML7 調査	20
3.2.5	CFM8 調査	20
第四章	分析考察	20
4.1	中国人の性格	20
4.2	謝罪をめぐる表現	24
4.3	企業文化理解の面	27
4.3.1	上下関係	28
4.3.2	働き方への対応力	32
4.4	日本の企業の組織性の理解	37
4.5	社会人としての行動能力	40
第五章	待遇表現観の指導についての考え	45
第六章	まとめと今後の課題	47
	参考文献	

## 要旨

稿者は中国で大学を卒業し、日系企業に勤務したことがある。当時の新入社員の研修は一ヶ月ほどであった。その内容はビジネス日本語を含め、ビジネスマナーや日本企業の文化についての、トレーニングであった。その時、学校で「敬意表現」について習ったにもかかわらず、現場では運用ができず悩んだ経験がある。また近年、日本で大学を卒業し、日本国内の企業に就職する中国人の留学生が増えている。日本での就業を希望する元留学生は大学を卒業し、学んできたことを活かして働いているが、母語ではない外国語である日本語を用いて仕事をしていることにより、文化的背景等の違いから生ずるコミュニケーション摩擦に直面していると考えられる。そんな中、日本の社会での円滑な自己実現に必要なコミュニケーション能力を養いたいという願望が強まっているとも考えられる。そしてコミュニケーションの障害を招く一つの原因として待遇表現能力が問われると考える。以上のことを踏まえ、日本の企業で勤務している中国人の待遇表現観を調査するに至った。

本稿での職場における待遇表現の理論上の拠りどころは蒲谷・川口・坂本(1996)とし、その定義に従い、待遇表現とは「相手や場面に配慮して使い分ける言葉遣い」とする。

本研究では、まず、待遇表現の定義を整理し、中国語と日本語の待遇表現の異同を明示した上で、実際に日本の企業で働いている中国人の待遇表現観にはどのような側面が見られるかを調査した。そのため、まず調査 1 で許可求めの場面を設定し、中国出身で、日本の大学を卒業し、2007 年度に日本国内の会社に就職した入社初年度の中国人調査協力者 CFY1 にロールプレイ調査を行った。そのロールプレイをネイティブスピーカー JFA2 に聞かせ、インタビューを行った。インタビュー結果に基づき、ロールプレイを行った中国人協力者 CFY1 にフィードバックを行うことで、日中の意識のずれを浮き彫りにすることを試みた。その結果を踏まえて調査 2 では調査 1 で浮き彫りになった両者の待遇表現観のずれを基に、現在日本の企業で働いている中国人協力者 5 人に対面待遇表現観インタビューを行った。インタビューでは、それぞれの中国人協力者の職場での経験を語ってもらうことで、敬意意識を調査した。つまり本論文は、日本の職場における中国人の許可求め表現を一つの切り口に、日本人と日本語で接触する中国人の待遇表現観を探ったものである。その結果をもとに、コミュニケーション上摩擦が生じる要因を探り、具体例を示していくことで、その解決法についても提言を試みた。

調査 1 では、中国人協力者 CFY1 と日本人協力者 JFA2 両者の間で、謝罪をめぐる表現や日本の企業文化の理解の面で意識のずれがあることが見られた。日本への長年の留学の後日本企業に勤務する CFY1 の仕事上の経験から、日中の架け橋になって役割をはたしていくためには、日本の企業に対応していただくだけではなく、日本と中国の間での調整能力も求められることもうかがえた。このような調査 1 の結果を受け、調査 2 の対面インタビュー調査では仕事場での経験を自由に語ってもらうことも含め、中国人の待遇表現観の特徴を導き出せるよう心がけた。

調査 2 の結果、まず調査協力者を取り巻く環境、目的、意欲、能力が多様化していることが観察された。また調査結果から、職場で求められる能力もさまざまであり、仕事に支障がないように意味が通じればよいとする協力者 (CFC5) もいれば、サービス業であるため、相手に失礼にならないように言語面を重視している職場もあった (CFM8)。しかし、調査協力者の中で、共通に見られる意識もあった。たとえば、物事をはっきり言い、正直な気持ちを伝えることと、それ

を内省している点である。そして、謝罪をめぐる表現では中国人と日本人との間の意識のずれが明らかになった。また、中国と関連がある仕事をしているCFY1、CFC5、CFM8が、日本の会社側が中国現地の状況に詳しくないことを踏まえて、少しでも日本側に理解してもらおう働きかけていることや、中国人でありながら日本の会社の仕事をしていることによって、中国現地とのやり取りのなかでの微妙な立場を保ちながら、双方の利害を調整していく能力が必要となることがわかった。

一方、中国人の待遇表現観の特徴を調査するにあたり、日本の職場がテーマであるにもかかわらず、評価者の立場でこの調査に関する意見をもらえたのが、いかに日本語使用への感覚が鋭いとはいえ、日本語教師のJFA2 だけであった点や、中国人側の調査人数が少ないことにより個人差が強く現れ、全体を把握することができなかつたことは、反省すべき点である。また、調査1のロールプレイによる調査では、できる限り、自然の会話に近づくように工夫はしたものの、ロールプレイによる調査の限界も深く感じており、今後の研究で注意すべきことと実感した。また、今回の調査は、中国人調査協力者の立場からのみの意識調査であり、彼らと同じ職場の同僚、上司や後輩の日本人からの調査ができなかつたため、客観性も不足すると認識しており、今後の反省材料にしたいと考えている。

本稿では、6人の調査協力者の待遇表現観の特徴を追ってきたが、今後の課題として、機会があれば、日本の企業側から見た中国人の待遇表現観についても調査をすることで、職場で働く上で日中の架け橋として求められる能力についてより深く探っていければと思う。また、日本の企業で働いている元留学生に求められる能力だけではなく、企業側の日本人社員の異文化理解の面でも研究する課題が残っていると考ええる。

## 参考文献

- 内田万里子(1991)「日本語的表現—外国語としての日本語教育と対照研究の視点から—  
(一)待遇表現 その1」『研究論叢』37 京都外国語大学国際言語平和研  
究所 pp.370-389
- 岡野喜美子(1998)「初級におけるスピーチスタイルの指導」『早稲田大学日本語研究教育セ  
ンター紀要』11 早稲田大学日本語研究教育センター
- 岡野喜美子(2000)「留学生の待遇表現使用—発話調査の結果から—」『早稲田大学日本語  
研究教育センター紀要』13 早稲田大学日本語研究教育センター  
pp.1-13
- 海保博之・柏崎秀子(2005)『日本語教育のための心理学』新曜社
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵(1996)「日本語学と日本語教育 待遇表現の指導」『日本語学』  
第15巻第8号 明治書院
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵(2002)『敬語表現』大修館書店 pp.152-153
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵・清ルミ・内海美也子(2006)『敬語表現教育の方法』大修館書店  
P55-59
- 串田秀也他(2005)『活動としての文と発話』ひつじ書房
- 国立国語研究所(2007)『言語行動における「配慮」の諸相』くろしお出版
- 佐々木倫子(2005)「文化リテラシーと配慮表現」『多言語多文化時代の文化リテラシー—配慮表  
現をめぐって』桜美林大学公開講座「配慮」研究会 pp.1-11
- 佐治圭三(1992)『外国人が間違えやすい日本語の表現の研究』ひつじ書房
- 柴田武(2001)『何が目的の「敬語表現」か』『日本語学』4月号 pp.34-37
- 高橋順一・渡辺文夫・大淵憲一(2006)『人間科学研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版
- 張平(2005)「中国語の配慮表現—日本語と比較して—」『多言語多文化時代の文化リテラシー—  
配慮表現をめぐって』桜美林大学公開講座「配慮」研究会 pp.45-63
- ネウストプニー.J.V・宮崎里司(2002)『言語研究の方法』くろしお出版
- 母育新(1999)「待遇表現の習得における中国人学習者の問題点と教科書が与える影響」  
『1999年度日本語教育学会秋季大会予稿集』日本語教育学会  
P165-170
- 堀口純子(1997)『日本語教育と会話分析』くろしお出版
- 南雅彦・アラム佐々木幸子(2001)『言語学と日本語教育』くろしお出版
- 水谷信子(1989)「待遇表現指導の方法」『日本語教育』69号日本語教育学会 pp.24-35
- 参考サイト (2008年12月28日現在)
- 宇佐美 まゆみ(2007)『基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese:  
BTSJ)』  
<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/usamiken/btsj070331.pdf>  
国語審議会のホームページ  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/12/kokugo/toushin/001216.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/kokugo/toushin/001216.htm)  
経済産業省—日本企業における外国人留学生の就業促進に関する調査研究について  
<http://www.meti.go.jp/press/20070514001/20070514001.html>  
日本学生支援機構[http://www.jasso.go.jp/statistics/intl\\_student/data07\\_d.html](http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/data07_d.html)